

第10回 太田哲也、フェラーリへの帰還。

フェラーリ ニッポン ストラダーレ



[TEZZO F 360 ストラダーレ製作プロジェクト]

編集委員 花村英典 text by Marina Oki
取材協力 花村英典 / 篠原 晃一 ● 写真 photographs by Hidetoni Yamamura / Kouichi Shiohara
テック ● 写真 ● 編集 ● 協力 photographs & cooperation by TEZZO 03-5460-2503
★テック・フォーカス編集部〒100-0001 東京都千代田区千代田1-10-10

編集委員 花村英典

2001年の夏以来というから、実に6年以上の月日が経っていた。サーキットで太田哲也がフェラーリに乗る。これはフェラーリであらう事故にあつてしまった太田にとって、文字が示す以上の深い意味合いを持つている。2007年10月27日、太田哲也、ふたたびフェラーリへと帰還。

太田哲也が、フェラーリに戻ってきた意味は何なるか。彼は走り続けるのか。それはまだわからない。だが、そんな疑問もすでに消えていた。その答えが、この目撃記事である。10月27日、フェリスでも、太田が、大勢の観衆にフェラーリを駆るのを見せ、2001年の夏に行われた「タイ・オープン・ハイパーミニミーティング」以来のこととなる。運送された

TEZZO F 360 ストラダーレは、まだレース中継中であるが、人前で走るといふ意味ではお披露目だ。前日までオーストリアのカッフェル・メカニク・スタッフ、駆けつけてくれたポルチーノ産出での「コリ」取りとなった。一方で、チームの若手メカがエンジンルームをあけるドライバーマテッス、



フェリスのサーキットで、太田哲也がフェラーリを駆る。2001年の夏以来というから、実に6年以上の月日が経っていた。サーキットで太田哲也がフェラーリに乗る。これはフェラーリであらう事故にあつてしまった太田にとって、文字が示す以上の深い意味合いを持つている。2007年10月27日、太田哲也、ふたたびフェラーリへと帰還。

フェリスのサーキットで、太田哲也がフェラーリを駆る。2001年の夏以来というから、実に6年以上の月日が経っていた。サーキットで太田哲也がフェラーリに乗る。これはフェラーリであらう事故にあつてしまった太田にとって、文字が示す以上の深い意味合いを持つている。2007年10月27日、太田哲也、ふたたびフェラーリへと帰還。



太田哲也がフェラーリで参戦した競走場にて、チームのメカニックたち、スタッフの他、多くのファンも集まった。



(左上) 燃料スタック、ワグスター組でメカニックがエンジン室を確認中。右側は、エンジンルームの様子。右側下は、タイヤ交換の様子。右側上は、タイヤ交換の様子。

フェリスのサーキットで、太田哲也がフェラーリを駆る。2001年の夏以来というから、実に6年以上の月日が経っていた。サーキットで太田哲也がフェラーリに乗る。これはフェラーリであらう事故にあつてしまった太田にとって、文字が示す以上の深い意味合いを持つている。2007年10月27日、太田哲也、ふたたびフェラーリへと帰還。

フェリスのサーキットで、太田哲也がフェラーリを駆る。2001年の夏以来というから、実に6年以上の月日が経っていた。サーキットで太田哲也がフェラーリに乗る。これはフェラーリであらう事故にあつてしまった太田にとって、文字が示す以上の深い意味合いを持つている。2007年10月27日、太田哲也、ふたたびフェラーリへと帰還。

フェリスのサーキットで、太田哲也がフェラーリを駆る。2001年の夏以来というから、実に6年以上の月日が経っていた。サーキットで太田哲也がフェラーリに乗る。これはフェラーリであらう事故にあつてしまった太田にとって、文字が示す以上の深い意味合いを持つている。2007年10月27日、太田哲也、ふたたびフェラーリへと帰還。

フェリスのサーキットで、太田哲也がフェラーリを駆る。2001年の夏以来というから、実に6年以上の月日が経っていた。サーキットで太田哲也がフェラーリに乗る。これはフェラーリであらう事故にあつてしまった太田にとって、文字が示す以上の深い意味合いを持つている。2007年10月27日、太田哲也、ふたたびフェラーリへと帰還。

フェリスのサーキットで、太田哲也がフェラーリを駆る。2001年の夏以来というから、実に6年以上の月日が経っていた。サーキットで太田哲也がフェラーリに乗る。これはフェラーリであらう事故にあつてしまった太田にとって、文字が示す以上の深い意味合いを持つている。2007年10月27日、太田哲也、ふたたびフェラーリへと帰還。